

水トラストニュース

2021.6 No.44



もくじ

| | |
|--------------|--------|
| 野遊びの価値 |1 |
| 竹細工とあれこれ |3 |
| 厚揚げのこと |5 |
| 2021年度定期総会案内 |7 |

野遊びの価値

水口 崇

「子供を山に連れていく」

水と食料、救急セットに非常食、軽登山用の補助ロープもリュックに忍ばせる。まだ学校までの道も一人では怖くて歩かせられない歳の子供が3人。早々に飽きて帰りたがるのではないか。二度と行かないと山が嫌いにならないだろうか。山で怪我したらどうしようか。子供を抱えて山を降りる羽目になった場合のことも考えた。

目的地について車を降りると、私が靴ひもを結ぶ間も待ってられないようで、勝手に林道を走って行く。凸凹な山道を走る姿に転ばないかとヒヤヒヤさせられたかと思うと、地面を這う虫が気になってうずくまったまま動かない。山に入る林道だけでも力いっぱい楽しんでいる様子。「子供を連れて行けるだろうか？」と心配していたが、親が付いていくほうが大変なほどに満喫している。心配は杞憂に終わったようである。

山といっても道もついているし、人の手が入っているので険しい自然というわけではない。しかし、ボール遊び禁止、ジョギング禁止と禁止だらけの都市の公園とは違う。アレは禁止、コレは危ない、と過保護なキャンプ場とも違う。自由であり、危険でもある。注意しなければ滑り落ちるような場所もあるし、危険な道具を使う場面もある。だからと言って子供に何もさせないのでは何をしに来たか分からない。一緒に険しい坂を登り、火を起こしたり、ナイフを使ったり。普段なら怪我が怖くて止めさせるところだが、「ちょっとした怪我くらいなら経験の内」と小言は飲み込んだ。

世の中は新型コロナウイルスの感染対策で旅行にも行けない、友達と遊ぶのも密を避けて、と制限付き。学校でも校庭は交代制で使うような息苦しい生活を強いられているらしい。部屋の中に閉じ込められていた子供たちには、力いっぱい自由に走り回れる山の中はどれだけ嬉しいか。山や森などの自然の中で子どもを育てる、体感させる事は以前から行われていたが、コロナ禍の中では更にその有用性が高まっているのかも知れない。

普段と違う環境に来ると、子どもの目には不思議なものが沢山で「あれは何？」と質問攻めになる。子供の疑問に答えるのは難しい。大人も知らない鳥や植物についてだったり、難しい自然現象についてだったり、ある時は哲学的な問いであったり。質問に答えられないと疑問は疑問のまま残る。しかし、それはそれで良いのだろう。大事なのは体感し、不思議に思うことであり、答えを知ることは後でも良いのではないだろうか。家に帰って一緒に鳥の名前を調べても良いし、自分なりの哲学を語るのも良いかもしれない。一緒に体感し、一緒に考える、一緒に調べる。そんな体験の方が答えを知ってしまうことよりも大切なのではないだろうか。

普段は気にも留めないが、足元の土の中に何がいて何が起きているか。身近に在るものでも人類の知識はそれを総ては説明出来ていない。見ようと思えばいつでも見られる所にも未知なものが溢れているが、意識しないと目には入ってこない。自分の視野の外に不思議で大切なものが沢山隠

れている事を、普段とは違う場所に来ると思い出させてくれる。大人の目には「ただの木の葉」としか映らなくても、子どもの目にはその一葉からも不思議な模様やトゲ、羽毛を見つけることが出来る。この自然の不思議に気づく力は子供の特権ではあるが、残念なことに使わなければ衰えていくものでもあるらしい。この力をいつの間にか失わない為には、目新しいものに触れ、それに感動することをやめない事だろう。そういったものに小さい子どもの内から触れ続ける事で感性が磨かれる。感性が豊かであれば目の前の事象からより多くのことを感じ取れるし、知らないことへの想像力や探求心も強くなる。それは日々の生活をより楽しむ力となる。

子どものペースで、子どもの目線で山を歩くと普段は見過ごしていたものに目が留まる。見ることを忘れていただけで、そこには沢山の興味深い不思議なものが溢れている。子供と遊ぶのは子供の為になるだけではない。大人も楽しんで、新しいものを発見することが出来る。新しい刺激ほど楽しいものは無い。単調な生活で凝り固まった頭をほぐして、子供と一緒に感動することが出来るのはなんと素晴らしい事であろうか。街の中にも楽しい発見は隠れているが、やはり自然の中には桁違いの発見が有ると思う。そして自然には(ある程度の)自由にできる余地が有る。そんな空間を見つけて通うことで感性を磨いて、新しいものに感動できる豊かな心を維持することで楽しく生きることが出来るのではないか。

私が山に通うのは子供の為でも、森林整備の為でもない。一番の動機は自分が愉しく過ごすためである。その上で、微力ながら山の環境保全にもなり、子供の遊び場としても残って欲しい、その手助けをしていければと思っています。



竹細工とあれこれ

西川 理

随分久しぶりに水トラストニュース記事を書きます、西川です。水トラストに参加して 10 年が経ちました。10 年と言ってもここ 5 年位は転職やら色々あって森の作業には行けてませんでしたが。今回は転職先の仕事、竹細工(竹工芸)で公募展に出品した事を書きたいと思います。

公募展とは

公募展と言うと知らない人はなんのこっちゃ?と思うかも知れませんが、品物を出品し審査員が評価し賞金・賞品・賞タイトルが貰える物です。よくある〇〇〇賞受賞とか。年末にある漫才の M-1 グランプリなんかもその類ですね。自分が携わっている工芸の分野にも日本伝統工芸展や日展を始め、こまごまとしたものがいくつかあります。

きっかけ

最初に公募展に出したのは今から 5,6 年前。竹工芸の勉強のため大分県別府市にある職業訓練校の生徒だった時。その頃、駆け出し(今もだが)で熟練職人との圧倒的な力量の差を感じていた自分は、何とか自分なりの道を開かねばと思い、栃木県大田原市が開催する「全国竹芸展」に出品する事にした。この公募展はプロも出すがその殆どが地元のアマチュアで比較的敷居は低い。



ちなみに今の時代、竹細工が地域に根付いてるのは珍しいのだが、その理由は栃木県に人間国宝が 2 名いらっしゃる、その関連で職人、教室の生徒などがいて絶えることがないからだ。

考えること

どんな公募展に出品する時も一番大事なのはコンセプトだ。作るものどこが良いのか、何が魅力なのか、何を審査員に見て欲しいのか。その公募展の過去の出品作、誰が出しているか。その人に負けない要素は何か。

とにかく自分のカラーを出さなければならぬので、人真似や人より劣る技法は NG となる。

製作

そんな所から自分が作ったのが写真のものになる。一般的な籠状とは離れた観賞用オブジェクト。三角形のパーツを90度にいくつか繋ぎ合わせている。クラフト紙でモデリングしたものを竹細工に落とし込んでいる。

これだけ見ると突飛なように見えるが、実はこういったオブジェクトはアート作品として30年程前より海外のアートギャラリーが取り扱いだしている。価格も様々だが作者の名と品物が良ければ三桁万円も行く(その額が作者に丸々入るわけではない) さすがに自分が作ったものはまだまだだが、一般的な編んで籠状に作っていくのとは別のアプローチなのと現代的なデザインという事で新人賞を頂くことができた。

この件で良かった事は、受賞もなのだが、先述の自分の意図したコンセプトが審査された所だった。商売でも公募展でも自分と相手の意識や目線が近いことが望ましいと思う。

現実

と、まあここまで書くとサクセスストーリーのようにも見えるが竹細工を取り巻く懐事情はかなり厳しい。専門の職業訓練校を卒業しても一般的な月々いくら頂ける、という形の就職はほとんどなく、独立するか、先輩職人の元で出来高の仕事をするか(経験が浅いと出来高でほとんど稼げない)くらいである。具体的な話をすると同期の一人は高名な人の下で就職(?)したが社会保険、雇用保険、その他色々無しで12万前後。健康保険は払えてるが年金は止める手続きをしているようだ。

また他にもある。工房で朝から夜まで働いて5,6万とか、先輩が仕事を時給換算したら30円だったとか。ともかくお金絡みで安泰できる事はほとんどの場合無い。自分も週5日のアルバイトを掛け持ちしながらなんとか続けている。

これは悲観するわけでも批判するわけでもなく、現代の生活・社会において竹細工というのがほとんどの人にとって必要では無くなった事と、まだまだ自分の力の入れ方が足りないせいである。

これから

少し話が暗くなってしまったが、それでも自分が納得した人生を歩めるのは幸せな事だと思う。10年前、水トラストへ参加した頃はアレでもないコレでもない自分の進む道を決めかねていたが、ようやくスタートラインにたったのかなと思う。

今日に至った理由は色々あるが、水トラストに来て森に触れた事もその一つだと思う。

竹細工は他の工芸と違って材料も自分で調達できる(しなければならぬ)し機械や設備の投資も少ない(機械化が難しい)ので何かと身軽だ。大分県から名古屋市に帰郷して3年程になったが、来月、このニュースが発行される頃には三重県の田舎で新しく住居と工房を構える予定だ。

これから先、三重で竹細工と言えば西川と名前が上がるくらいになりたいものです。

お知らせ

ちょっと先のことになりますが、2021年度、名古屋市の「なごや環境大学」と水トラストが協力していくつか講座を開いています。その中の2月、3月の講座は自分が受け持ち竹にまつわる何かをやる予定です。興味がある方はぜひ森に遊びに来てみて下さい。

厚揚げのこと

市村 正也

毎年4月に行う「春を食べる会」の主役は山菜野草の天ぷらで、今年はちょうどコシアブラの新芽が出ていたのでたくさん食べることができた。(異常に暖かかった2、3月のおかげです) それに加え豆腐田楽も長年もう一つの主役だったのだが、材料の調達がむずかしくなってやめることにした。去年はそのかわりにトリをさばいて盛り上がったが、今年は厚揚げを炭火で焼いて食べることにした。時間をかけて、外側がパリパリになるまで焼くと、とてもおいしい。甘味噌が合うが、何もつけなくても十分いける。みなさんに好評で、主役とはいかないまでも名脇役にはなったと思う。

ところで、その厚揚げはI大手スーパーとD量販店で購入したのだが、D量販店の厚揚げが妙にしっかりしすぎていることにメンバーが気がついた。それで、包装に書かれた原材料を見てみると、大豆、油に次いで「タピオカ澱粉」が3番目に書いてあった。厚揚げにタピオカ? 妙にしっかりした食感なのは、中身が豆腐ではなく、いわばお餅のようなものだからだ。ちなみに、I大手スーパーのものにもタピオカは使われていた。こちらの方が控えめに使われていたということだろう。あとでタピオカの入っていない厚揚げを探して、同じように焼いて食べてみたのだが、確かに食感が違う。タピオカなしだと、中に小さな空洞ができて、少しぼそぼそした感じなのだ。でも、豆腐は水分をたくさん含んでいるのだから、油で長時間揚げていたらそんな感じになるも当然といえば当然だ。

炭火焼き厚揚げは好評だったので来年以降も続けるが、次はぜひ御嵩町のお豆腐屋さんで厚揚げを買いたいと思っている。(それならタピオカは入っていないだろう) 以前、御嵩駅の近くに一件お豆腐屋さんがあって、その名物のガンモドキがすごくおいしかったのだが、だいぶ前に閉めてしまった。他にも豆腐屋さんの看板を見かけはするのだが、厚揚げがあるかどうか、そもそも営業しているかどうか、まだ確かめていない。

昔はどここの町にもお豆腐屋さんがあった。私の故郷は新潟県の田舎町(妙高市新井)なのだが、



(文章とは関係ないですが)
5月にカモシカ(?)が目撃されました!

実家の近くには小さな商店街があり、もちろん豆腐屋さんもあった。(その息子と中学生の時同じクラスだった。彼の近くに行くと、いつも少し油揚げのにおいがした。) 商店街には他にも肉屋、魚屋、パン屋などなどがあり、麴屋もあった。その麴屋の甘酒は本当においしかった。私が実家にいたころは(もう四十年以上前だ)、皆そういう近所の商店で買い物をしていた。でもその後、人々は車で郊外の大型店へ買い物に行くようになり、近所の商店街からは次々と店が消えていった。

同じことは、日本中で起きている。

御嵩には、豆腐屋さんが残っていてほしい。残っていたら、来年はその厚揚げがどんな感じかを報告したい。

以下、すみません穴埋めです・・・

- 1 私の祖父は無類の豆腐好きだったそうだ。昔なので鍋を持って豆腐を買いに行くのだが、祖父が買いに行くと、途中でつまみ食いをするため、家に着いた頃には豆腐は丸くなっていたという。(私も冷奴は調味料なしで食べる、祖父と同じように)
- 2 実家の近所の商店街(だったところ)に S ラーメン屋がある。店舗は古い木造家屋で、目立つ看板の類もない。そこでは、店の人がラーメンを運んでくるとき、必ず親指がスープの中に入っているという。これは地元では有名な話なのだが、それでも根強いファンがいて、他の商店があらかた消えてしまった今でも、そのラーメン屋は残っている。
- 3 消えてしまった店の一つに A そば屋がある。私の親戚の家がやっていた。食堂ではなく、日本そばの麵を作る製麺業の店で、毎朝、その日に使う分のソバを石うすで挽いて、手打ちで麵を作る。日本そばは「挽きたて、打ちたて、茹でたて」を食べるものだとそのそば屋さんによく言っていた。私にとって、そのそばは最高においしいそばだった。ところが三十年ほど前、跡取り息子さんが病気で若くして亡くなってしまい、それで廃業することになった。あのそばの味がなくなってしまうのが惜しくて、私は自分があとを継いだらどうだろうかと考えた。親に言ったら「なにバカなこと言ってるの」と軽くあしらわれたが、叔母の一人がこんなことを言った。「あそこのそばは、おじいちゃん(先代の創業者)のときは本当においしかった。でも今は味が落ちた。あの味なら、残す価値はない。だから継ぐのはやめておきなさい」私には先代の味はわからないのだが、そう言われてからはあとを継ぐ話しをするのはやめた。もともと、私は手先がものすごく不器用なので、継いだところでおいしいそばを作れるわけはなかったのだが。

丸太を出荷しました

2月10日、町有林で間伐したヒノキ材を大王製紙へ出荷しました。
今回は15トン。

(丸太1トンから、ティッシュペーパーが約1000箱できるそうです)



2021 年度定期総会のご案内

時：6月20日（日）14：00～

場所：名古屋働く人の家（地下鉄・伝馬町下車、徒歩6～7分）

議題：2020年度事業報告および決算報告

2021年度事業計画および予算

その他の報告



YouTube「なごや環境大学」のページに
水トラストの紹介動画が掲載されています

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき：毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所：御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間：午前10時（日曜日に日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先：TEL & FAX 052-735-5453（市村）

e-mail: mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒464-0850 名古屋市千種区今池3-12-3

丸美タウンマンション今池205（←2020年11月より）

郵便振替00840-5-137369（←2018年5月より）

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp